



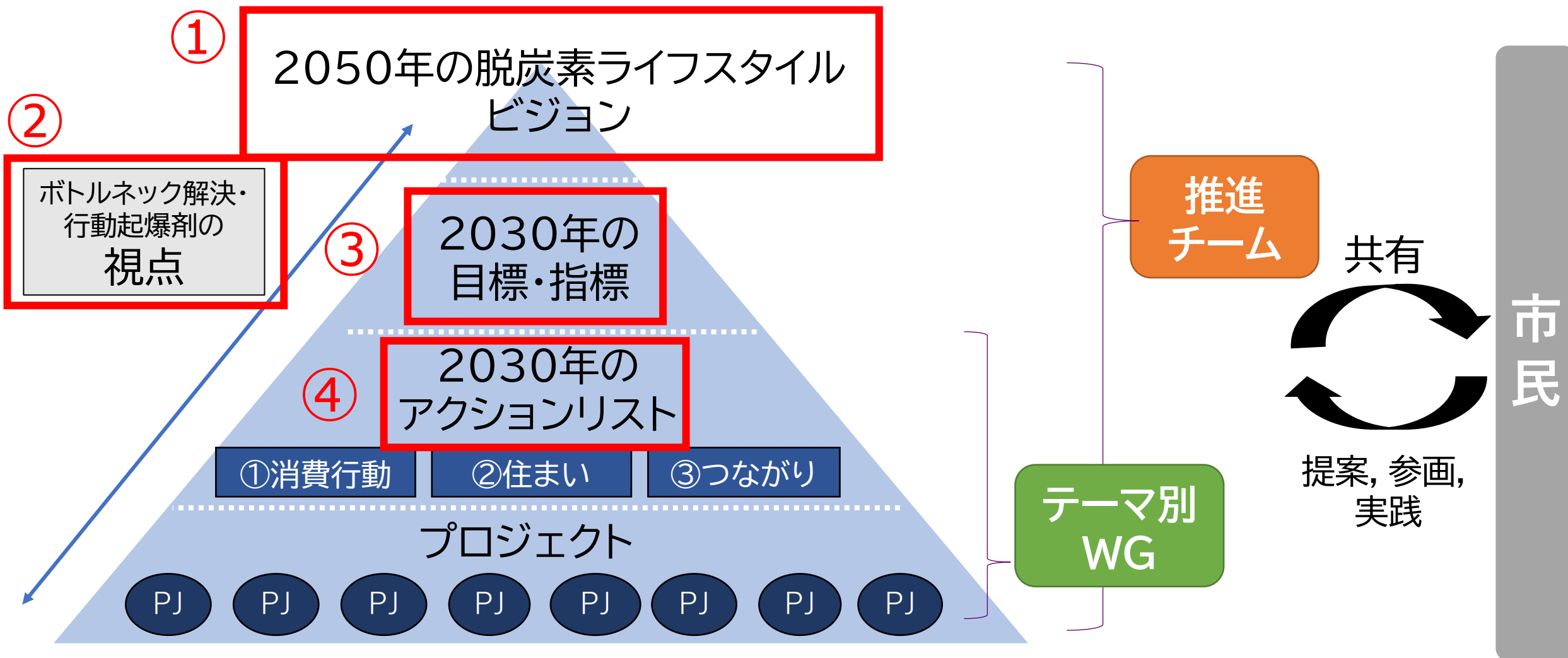
京都発 脱炭素ライフスタイル 推進チーム ～京創ミーティング～



本日のスケジュール

15 : 00	開始
15 : 05	本日の内容について
15 : 10	2030年アクション案の共有
15 : 50	2050年のビジョン（案）, ボトルネック解決法の視点（案）, 2030年の目標・指標（案）, アクション（案）の説明
16 : 10	グループディスカッション
16 : 50	わかちあい コメントの共有（メンバー）
17 : 15	新川座長よりまとめ
17 : 20	分野別ワーキングチームについて, 次回スケジュール, 事務連絡
17 : 30	終了

2050京創ミーティングの全体像



脱炭素ライフスタイルの実践に向けて、
この10年間であなたが取り組んでみたい
アクションは？

※ワンフレーズでもOK, 構想程度で構いません。

※おひとり1分程度でお願いします。

① 2050年の脱炭素ライフスタイルビジョンについて

2050年脱炭素ライフスタイルのビジョンに関わるキーワード(前回のご意見)

「豊かさ」

- ・ 足るを知り、心が豊かになることが地球の調和につながる。
- ・ ごみになるものは売らない、ごみは買わないがあたりまえになることが豊かさ。
- ・ 自分が社会を支えていること、社会の一部であることが豊かであると認識できることが大事。
- ・ CO2の正味ゼロと同時に豊かさを考えると、精神的な充足も重要。
- ・ いろんな豊かさがある。自分たちが本当に求めている豊かさを考えながら、共有しながらできると良い。

「数値目標の先にあるもの」

- ・ 数値目標はCO2ゼロだが、それはその先に達成するものへのマイルストーンであり、何を達成するのが重要。
- ・ CO2ゼロだけが先行するのではなく、他の社会問題の解決につながっていくアクションが掲げられるといい。
- ・ 2050年には、温暖化ではない問題がでてくるかもしれない。解決していける人材の教育が必要。

「技術とライフスタイル」

- ・ CO2正味ゼロを、技術を駆使して達成するか、地産地消のライフスタイルで実現するか。
- ・ 2050年の技術についてイメージをそろえつつ、どんな技術があるどんな時代でもぶれないことをビジョンに描く。
- ・ 技術は人間の進歩だが、楽をする技術は減らし、そこを埋めていた先人の知恵など、必要なものを見直していくべき。
- ・ まだ実用化されていない技術を求めるよりも、ライフスタイルを地域循環型にして、地産地消の方が実現可能では。

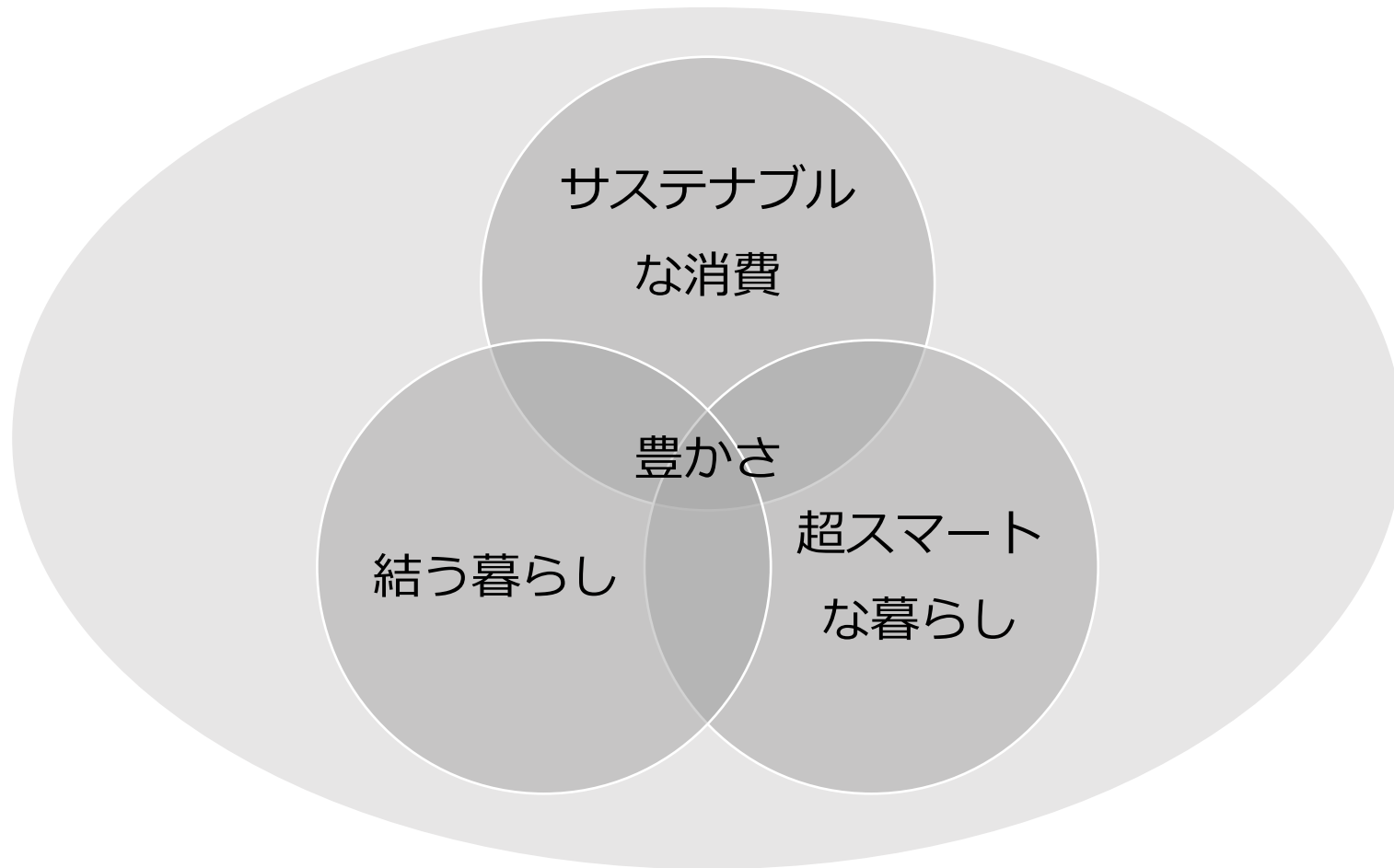
「多様な選択肢」

- ・ 我慢だけでない、便利で、かつ環境にやさしい暮らしの選択肢をできるだけ示すことが大切。
- ・ 様々な選択肢があって、考えずとも環境配慮している状況をつくることが重要である。
- ・ いろんなストーリーがあって良いが何でもありではなく、こういうものかとイメージできるいろんな選択肢を例として示し、いろんな将来が開けているようにつくっていいと良い。

2050年のビジョン

2050年のビジョン

京都の自然と共生する文化やしまつの心を大切にしながら、
多様でサステナブルなライフスタイルを選択できるカーボンニュートラルな社会



サステナブルな消費に関するキーワード(前回のご意見)

「足るを知る」

- ・人は足りているものではなく、ないものを求め、足りないものをモノで補っている。
足るを知り心が豊かになることが地球の調和につながる。
- ・ごみになるものは売らない、ごみは買わないが当たり前になることが豊かさでは。

「生活者」

- ・生産と消費が分かれ、技術を開発する人とそれを使う人が分かれてしまった。もう一度「生活者」として統合する必要がある。企業も生活者も一緒になって、ライフスタイルを作っていけないといけない。
- ・幸せな食卓が地域に広がると、CO2が出ない地域になるのではないか。
- ・もっと食べ物が選べる、米粉パンや代替肉が気軽に買えるようになると良い。
- ・環境にいいことをしていたら、いいことがあるという、手ごたえ、手触りが欲しい。
- ・長く使うことによる経済的メリットの仕組みづくりが必要ではないか。

「地域循環・地産地消」

- ・必要なものをすべて知り合いから買えるようになれば、行動が変わるのではないか。
- ・まだ実用化されていない技術を求めるよりも、ライフスタイルを地域循環型にして、地産地消の方が実現可能では。

サステナブルな消費

◆ 本当に必要で長く使える「ほんまもん」を愛し、モノのストーリーを大切にする、心地よい暮らしへ

- 大量生産・消費・廃棄型から適量生産・消費・資源循環型（しまつのこころ、足るを知る）にシフト
- 旬の食べ物や植物，木材などモノやエネルギーの地産地消
- 生活者の視点で，生産・消費のシステムを再構築
- モノやモノのストーリーを共有する「顔の見える関係」の構築
- 必要なモノを美味しく分かち合う“幸せな食卓”の拡大
- 必要なモノを知り合いから購入するなど，環境にも良いサステナブルな消費行動の主流化
- 自然に負担をかけない生産・流通，地域循環型のライフスタイルの普及

超スマートな暮らしに関するキーワード(前回のご意見)

「可視化」

- ・今の生活でどれだけCO2を出しているのか可視化する必要がある。
- ・生活で出ているCO2の可視化は、生活においても仕事においても必要。

「江戸時代」

- ・テクノロジーを楽しく上手に取り入れながら、江戸時代のよかった部分を振り返って、持続的な暮らし方や時代背景を考えてはどうか。

「住まい」

- ・夏は涼しく冬や温かい住まいだと、豊かに生活できる。

「収益＝原動力」

- ・収益が生まれれば、原動力になる。ソーラーパネルをつけて余剰を売電するなど、何かできることがあるのではないかな。

◆ テクノロジーと京都の知恵に支えられた高効率で快適な暮らしへ

- 心と体の健康・安全が保たれている
- コストにも配慮したエネルギー効率が自然と最適化
- ゼロエネルギー型の住宅（ZEH）や省エネ家電の選択などが主流化
- 使用するエネルギーの100%再生可能エネルギー化
- エネルギーフローが可視化された快適な住まいが標準化
- 木の温もりを感じ、森を守り育てる住まい
- 歴史や文化・伝統の持つ力で彩る暮らし

結う暮らしに関わるキーワード(前回のご意見)

「つながり」「シェア」

- ・ 2050年も人のつながりが大事。地蔵盆などの行事でいろんなものをシェアしてつながりが育ってきた。課題も含めシェアして解決していくことが大事。
- ・ 自分が社会を支えていること、社会の一部であることが豊かであると認識できることが大事。

「地域経済」

- ・ 地域の中でお金やモノが循環し、皆が持続していくレベルの経済成長にとどめる地域経済モデルが必要。

「自然観」「文化」

- ・ 自然に対する感謝の心が日本文化の肝である。そうした精神を世界に発信することが今、求められている。
- ・ 人も自然の一部という考えを持っていれば、自然との対峙の仕方が変わってくる。
人と自然との関係を見つめ直すことが重要。
- ・ 環境問題を解決する上で、精神的なところを踏まえ、文化軸からのアプローチも長期的には大事。

◆ 地域のコミュニティや世代間、地域の自然資本とつながることで安心を取り戻す暮らしへ

- 弾力性のある緩やかなつながりにより支え合い、孤独・貧困・過疎・里山管理など地域課題×環境課題をシェアして解決することが、豊かさにつながる暮らし
- 複業・多業や二地域・他地域居住など都市部と山間部との行き来が、地域の元気にもつながる暮らし
- 自然に感謝し、地域の自然資源を活用した伝統文化や地域の祭りなどの継承、地域の魅力の向上
- 環境課題解決型ビジネスに取り組む中小企業・スタートアップ・NPO等が集積するエコシステム
- 地域や多世代ぐるみで取り組む環境教育
- 地域・環境課題の解決に向けた、担い手育成や雇用の拡大
- 地域内で循環する地域経済モデルの構築
- 自分が支えていることが自分と環境の豊かさにつながると認識できる社会

②ボトルネック解決・行動起爆剤の視点について

ボトルネック解決・行動起爆剤の視点(前回のご意見)

「精神」

- ・人も自然の一部。人と自然の関係を見つめなおすことが重要。自然に対する感謝，畏敬の念。
- ・環境問題を解決するうえで，精神的なところを踏まえ，文化軸からのアプローチも長期的には大事。

「ビジネス」

- ・2050年は，ビジネス自体が持続可能性に繋がっていることのイメージは大切。
- ・テクノロジーを楽しく上手に取り入れながら，持続的な暮らし方や時代背景を考えてはどうか。
- ・地域の中でお金やモノが循環し，皆が持続していくレベルの経済成長にとどめる地域経済モデルが必要。
- ・長く使うことによる経済的メリットの仕組みづくりが必要ではないか。

「仕組みづくり」

- ・頑張らないしくみや，楽しく生きていたら勝手にそうなるしくみをつくる。
- ・様々な工夫や様式の変化などを生みだすため，マイノリティをマジョリティに変える，色んな実証実験が必要。
- ・様々な選択肢があって，考えずとも環境配慮している状況をつくることが重要。

「伝え方」

- ・「しなければならぬ→したい」，「やっちゃだめ→こんなことができるよ」
- ・FEAST（Fun, Easy, Attractive, Social, Timely）5つのキーワードを，提示していけるようなものが大切。

「その他」

- ・気候危機がいろんな社会問題と絡み合っているという視点を持つ。
- ・石炭火力発電など，気候変動を促進する事業活動に従事している人の新しい就職先を開拓する。
- ・皆が当事者意識を持ち，ゴールとその道筋を見すえていく必要がある。
- ・食べる技術・人を維持していく・次の世代につなげる。

プロジェクトを進める上で大切にしたい11箇条

ボトルネック解決・
行動起爆剤の
視点

= 2050京創ミーティングでプロジェクトを進める上での、ボトルネック解決・行動起爆剤の視点

現状のボトルネック

11箇条

1. 意識高く考えて行動しなければ、環境配慮行動をとることが難しい
2. 環境配慮行動をとる人は少数派であるため、仕組みが広がりにくい
3. 環境配慮行動の選択肢が少なく、意欲があっても行動までのハードルが高い
4. 環境を守るために、「～しなければならない」「～やっちゃだめ」と押し付けがち
5. 人手不足等により、農業などの技術が次の世代に受け継がれない
6. 気候変動問題は様々な社会問題とつながっているが、他分野と連携できていない
7. 人の善意や良心に頼った仕組みになっている
8. 環境配慮行動をとったときのインパクトが可視化されていない
9. 気候変動問題は大きすぎるため、自身の寄与度が分かりづらい
10. 自分ひとりが行動しても影響はないという無力感を感じる
11. 暮らしが自然の恵みに支えられていることなど、自然への感謝の念の希薄化

1. 意識高く考えて行動しなくても良い仕組み
2. 環境配慮・社会貢献の行動の主流化
3. 多様な価値観を反映した選択肢
4. 分かりやすくポジティブな伝え方
5. 人材育成・雇用拡大で、次の世代に繋ぐ
6. 社会問題と一緒に解決して、幸せになる
7. ビジネスで回る仕組み
8. 環境へのインパクトやメリットが見える化
9. 皆が当事者意識を持ち、自分ごとと捉える
10. ゴールと道筋を設定し、行動をシェアする
11. 京都の自然の恵みを活かす

③2030年の目標・指標について

客観的な指標

例) カーボンフットプリント

- ・衣類を長く着る 0.19 トン
- ・食事を完全菜食（ヴィーガン）に 0.34トン
- ・自宅を ZEH に 1.8 トン
- ・マイカーを電気自動車に 0.47トン

主観的な指標

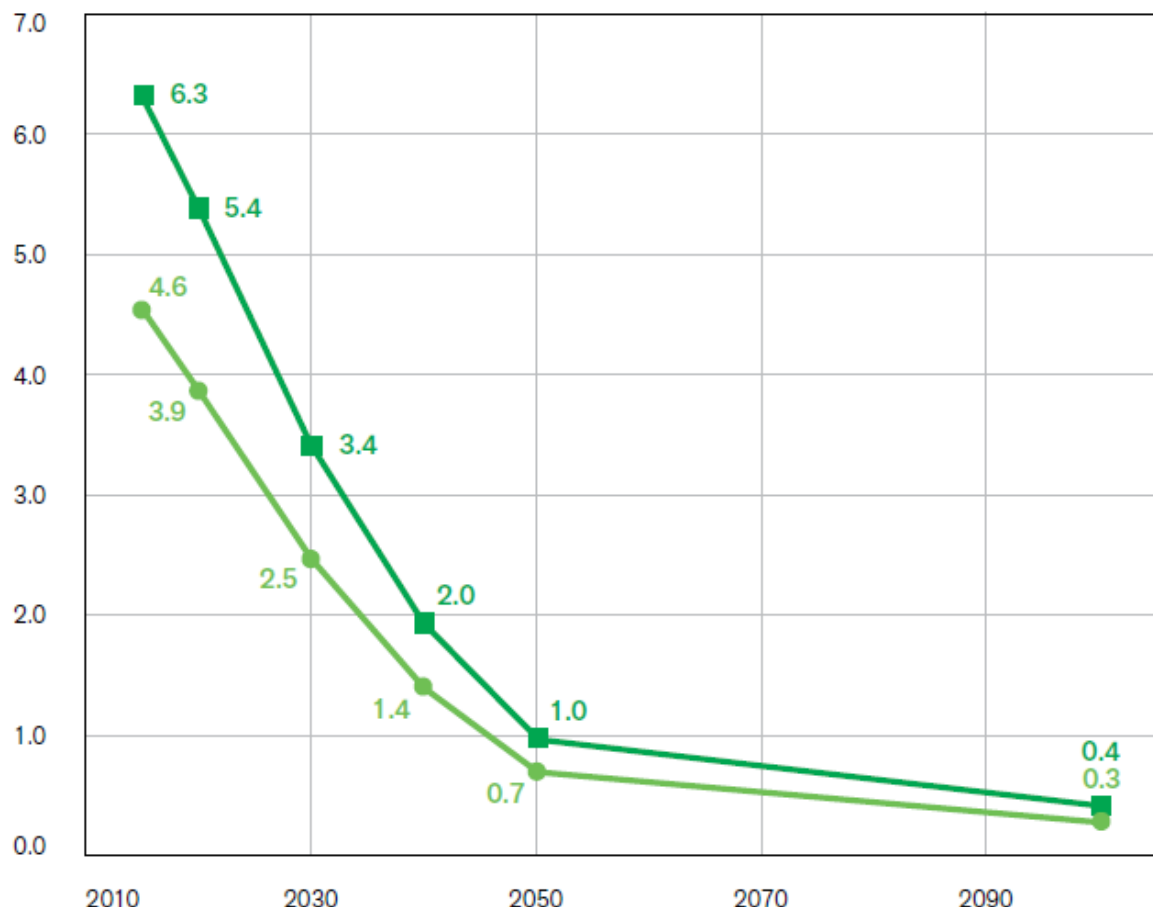
例) 人々の考え方・価値基準・つながり

- ・あなたは『温室効果ガス排出 実質ゼロ』は、今後の対策次第では達成可能だと思いますか。
- ・地域での環境学習・環境保全活動への参加率

2030年の目標・指標案

パリ協定の1.5℃目標に対応するライフスタイル・カーボンフットプリント※目標は、年間一人当たりCO2換算で2030年に**2.5 tCO₂e**、2040年に**1.4 tCO₂e**、2050年に**0.7 tCO₂e**

カーボンフットプリント目標 (tCO₂e/人/年)



■ 1.5℃目標に対応する合計カーボンフットプリント (tCO₂e/人/年)

● 1.5℃目標に対応するライフスタイル・カーボンフットプリント (tCO₂e/人/年)

※**ライフスタイル・カーボンフットプリント**とは、消費者による製品やサービスの購入・使用に伴うGHG（温室効果ガス）排出を対象とする。そのため、中央・地方政府による支出や公共投資、設備投資などの固定資本形成に伴うGHG排出量は除外される。

現在の日本における一人当たりライフスタイル・カーボンフットプリントは**7.6 tCO₂e**であるため、2030年に**2.5 tCO₂e**を達成するためには、これから**5.1 tCO₂e**削減する必要がある。

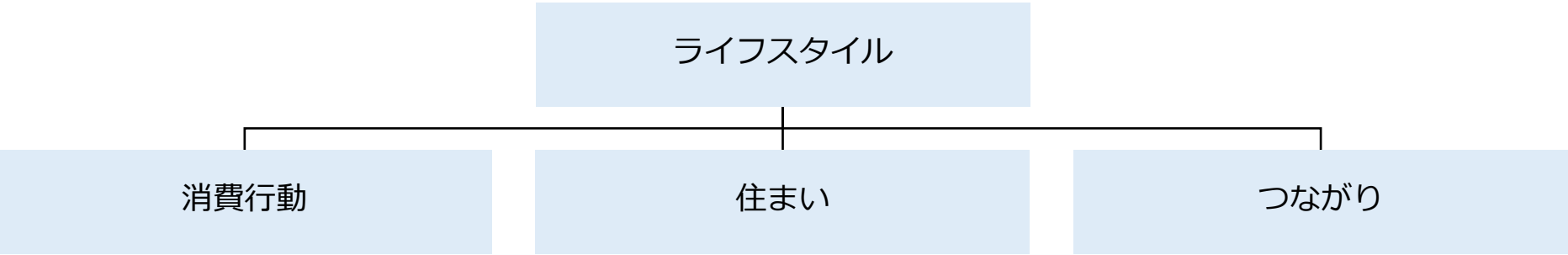
図 3.2 1.5℃目標に対応するライフスタイル・カーボンフットプリントおよび合計カーボンフットプリント目標

参考：IGES「1.5℃ライフスタイル ― 脱炭素型の暮らしを実現する選択肢 ― 日本語要約版」

2030年の目標と客観的な指標案

【①全体指標】

- ・市内CO2排出量（家庭部門）
▲**32.5%**(2018年比)
- ・家庭でのエネルギー消費量
▲**22.5%**(2018年比)



【②行動指標】

カーボンフットプリント
年間1人当たり**2.5トン**へ
(現状年間1人当たり7.6トン排出のため、**5.1トン***の削減が必要)
※数値は、精査中

(測り方)
アンケートでサステナブルなライフスタイルに関する行動の実行頻度・実行有無を尋ね、カーボンフットプリントを算出
※削減効果の項目は、精査中

- (削減効果)
- ・衣類を長く着る 0.19 トン
 - ・食事を完全菜食（ヴィーガン）に 0.34トン
 - ・食事を菜食に 0.22トン
 - ・食品ロスをゼロにする 0.05トン
 - ・地元で採れた野菜や果物を食べる 0.01トン
 - ・消耗品を節約する 0.09トン
 - ・まとめ買いをする 0.15トン

- (削減効果)
- ・自宅を「ZEH」に 1.8 トン
 - ・太陽光パネルの導入 1.3トン
 - ・自宅電力の再エネ化 1.2トン
 - ・太陽熱温水器の導入 0.18トン
 - ・断熱リフォーム 0.14トン
 - ・ヒートポンプ給湯器の導入 0.12トン
 - ・自宅電球のLED化 0.09トン
 - ・自宅の窓を二重窓に 0.05 トン

- (削減効果)
- ・ライドシェアの利用 0.51トン
 - ・マイカーを電気自動車に 0.47トン
 - ・市内移動を公共交通機関で 0.41トン
 - ・テレワークの実施 0.28トン
 - ・レジャーをアウトドアや地域で 0.25 トン
 - ・カーシェアの利用 0.21トン

出典：Ryu Koide, Satoshi Kojima, Keisuke Nansai, Michael Lettenmeier, Kenji Asakawa, Chen Liu, Shinsuke Murakami (2021)
Exploring Carbon Footprint Reduction Pathways through Urban Lifestyle Changes:A Practical Approach Applied to Japanese Cities. Environmental Research Letters. 16 084001 <https://doi.org/10.1088/1748-9326/ac0e64>

【③テーマ別指標】

1人当たりごみ排出量
396g→**370g/人/日** (2019年度→2030年度)
燃やすごみのうち手つかず食品の量
47g→**38g/人/日** (2019年度→2030年度)

- (指標)
- ・1人当たりごみ排出量
 - ・燃やすごみのうち手つかず食品の量

- (指標)
- ・再エネ電気の割合
 - ・太陽光パネルの設置率

- (指標)
- ・地域での環境学習・環境保全活動への参加率

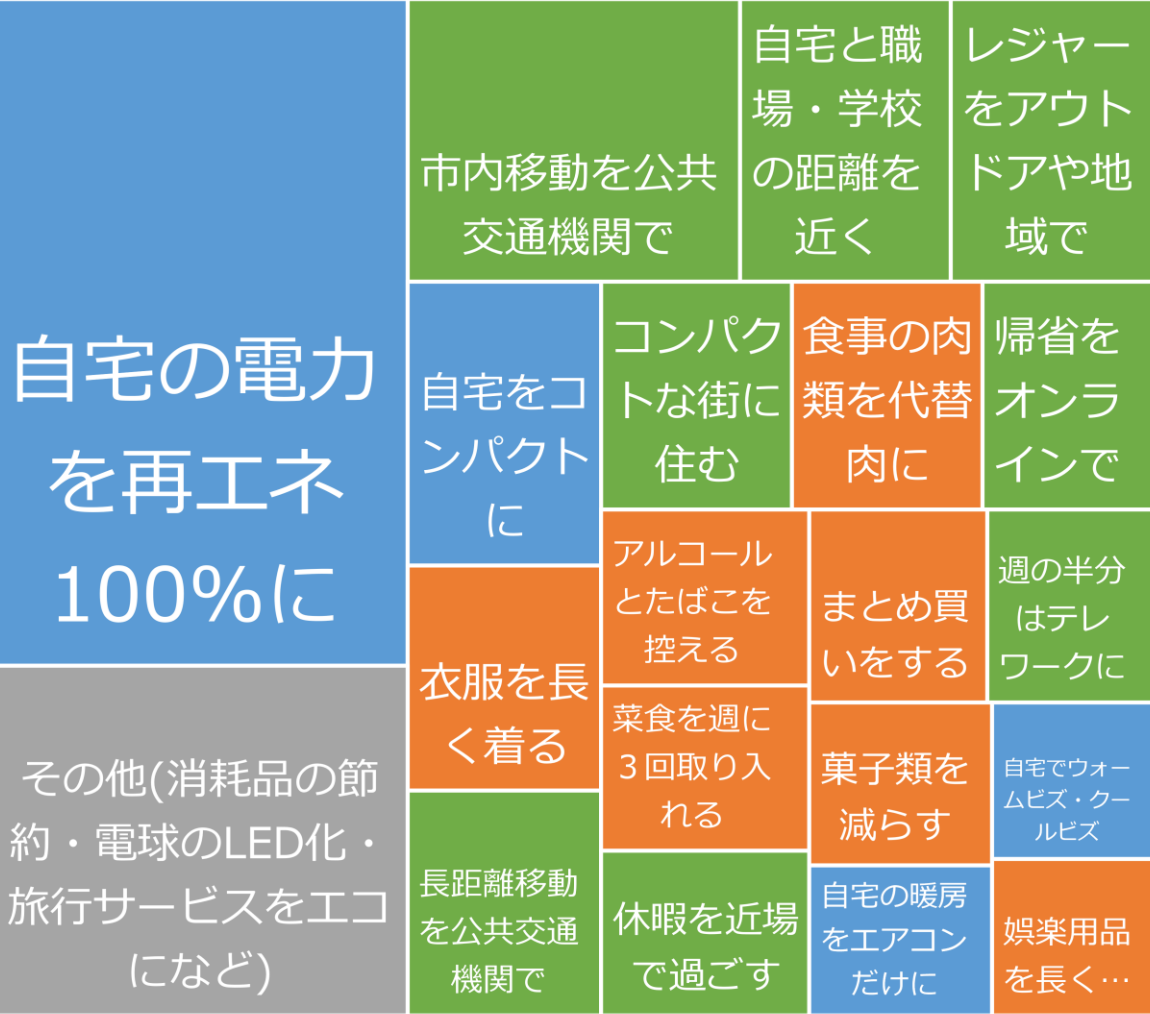
カーボンフットプリント5.1トンの削減例

消費行動

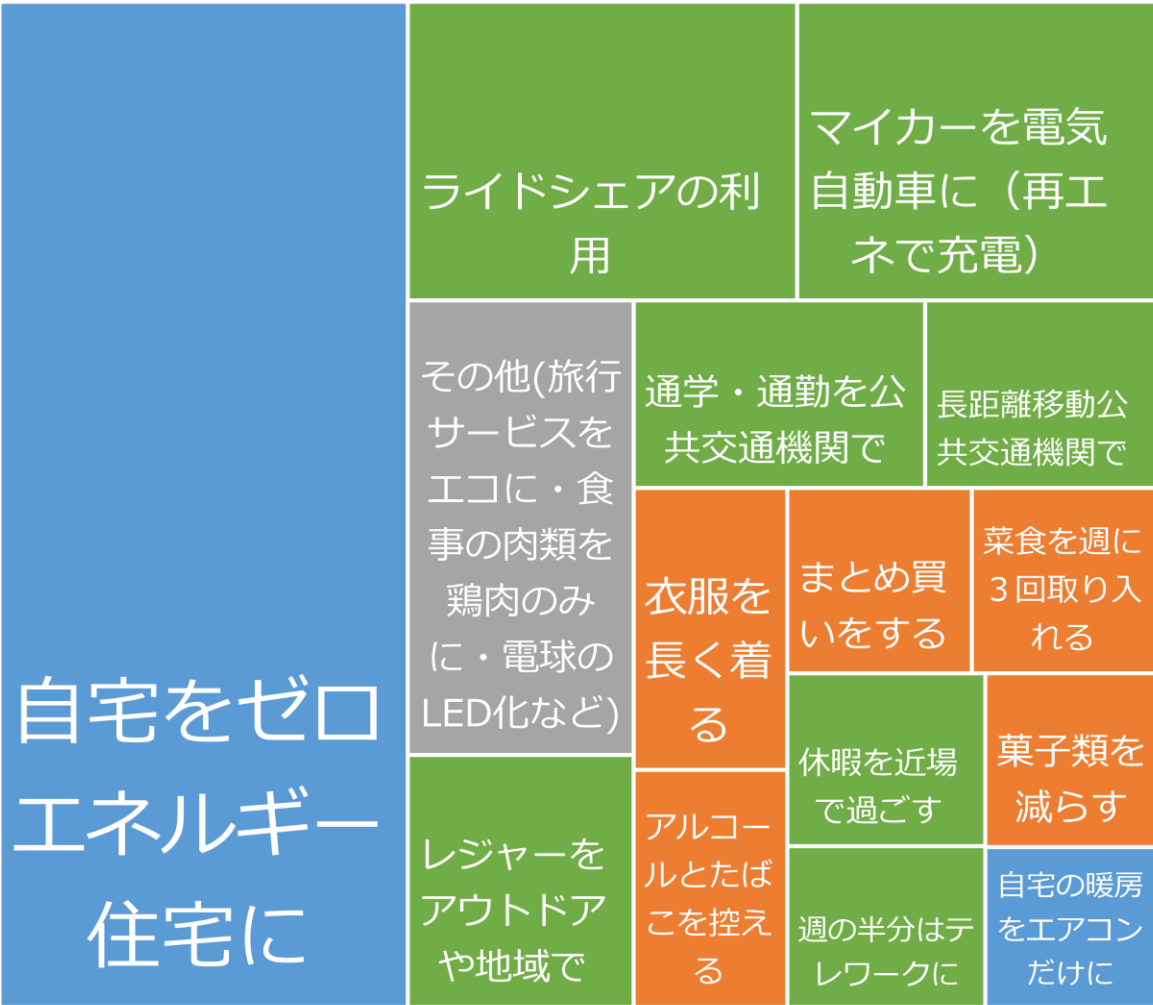
住まい

つながり

持ち家なし・マイカーなし（例）



持ち家あり・マイカーあり（例）



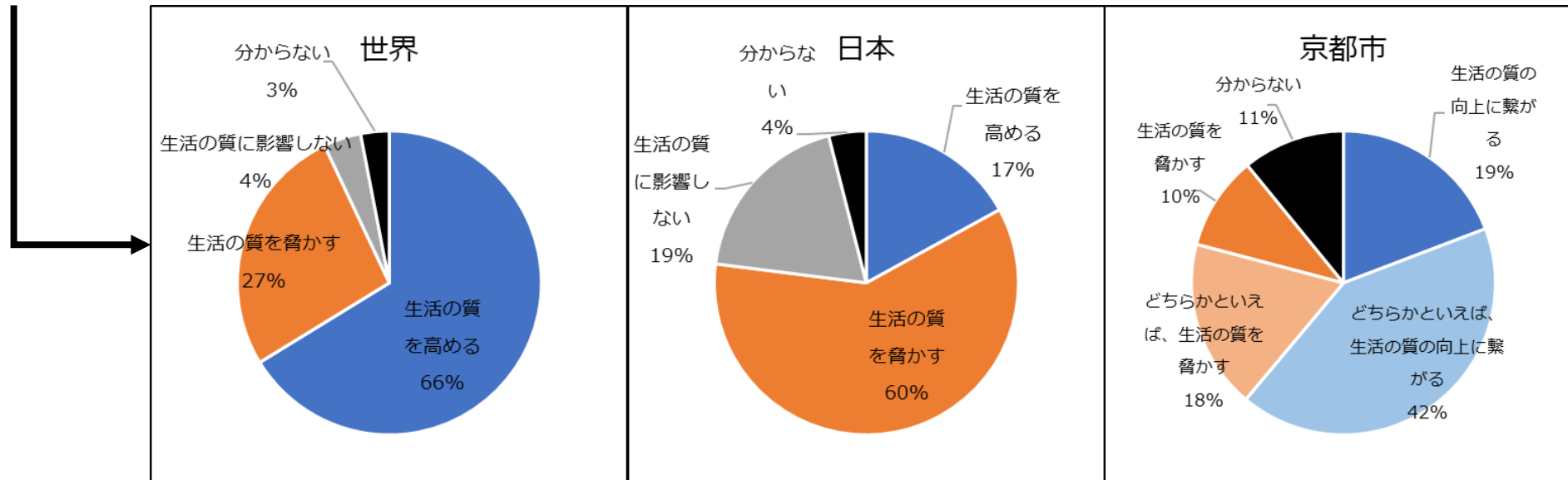
2030年の主観的な指標案

2050年のビジョン

京都の自然と共生する文化やしまつの心を大切にしながら、
多様でサステナブルなライフスタイルを選択できるカーボンニュートラルな社会

項目（例）

- あなたは『温室効果ガス排出 実質ゼロ』は、今後の対策次第では達成可能だと思いますか。
- あなたは生活の中で自然のありがたみを感じることはありますか。
- あなたにとって気候変動対策は生活の質を高めるものですか。生活の質を脅かすものですか。



出典：World Wide View on Climate and Energy (2015)“Results”，京都市(2020)「環境基本計画市民アンケート調査」

④2030年のアクションリストについて

アクションリスト(イメージ)

テーマ1：消費行動

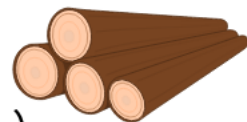
	衣	食	その他
調達	環境配慮商品の購入、必要な量だけ購入、素材や生産ルート等、モノの物語・足跡を知る、宅配を1回で受け取る		
消費	シェアリングサービスの活用 古着を購入 バイオマス・リサイクル・リユース素材の選択	家庭菜園・市民農園 代替肉・菜食主義・精進料理の購入 販売期限間近の商品を購入 旬の食材・地元食材の購入	保有から利用（シェアリングサービス） 量り売りの利用 ペーパーレス化 プラではなく、木などバイオマス素材の選択
リユース	長く大切に着る お直し・リメイクファッション 修理して使う	食べ残さない 余った食材を活用する 食べ残し料理の持ち帰り	マイバッグ・ボトル・ストローの携行 ワンウェイプラを使わない 日用品を長く利用する 修理して使う
リサイクル 廃棄	フリーマーケット リユースショップ 古着の資源回収 繊維のリサイクル	フードドライブ フードバンク 食品のリサイクル 野菜くず等をたい肥化・回収 分別排出	フリーマーケット リユースショップ プラ・廃油のリサイクル 廃棄物のアップサイクル製品創出 分別排出
			

テーマ2：住まい

ハード面

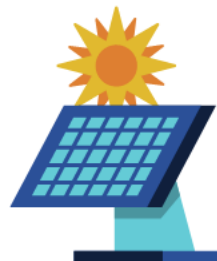
【新築】

- ZEH(ゼロエネルギーハウス)
- 環境配慮マンション, シェアハウス
- 市内産木材の活用



【既存】

- 既存住宅の環境性能向上（省エネリフォーム）
- 既存住宅に太陽光パネル, 蓄電池を導入
- 家, 家具, 家電, 太陽光パネル等を, 修理しながら長く使用
- 給湯の高効率化



【賃貸】 省エネ・再エネ物件の選択

ソフト面

【エネルギーの使用】

- 省エネ家電への買替・省エネ行動の徹底（節電・節湯・自然乾燥等）
- 再エネ電気への切替・再エネ電気の使用
- エネルギーの使用量を見える化
- EVを電池として活用



【その他】

- グリーンカーテンや打ち水など自然で暮らしやすい工夫
- 植物を育てる
- 暮らしに木を取り入れる
- 家具や家電についてPaaSの利用
- 修理できなくなった家電等は回収
- クールビズ・ウォームビズの実践



アクションリスト(イメージ)

テーマ3：つながり

【移動】

- スマートムーブ（公共交通機関の活用・徒歩・自転車）
- シェアリングサービス（車・自転車）の活用
- エコカー（EV・FCV）の活用
- エコドライブ，ライドシェア



【働く】

- 自然豊かな郊外でのワーケーションの実施
- テレワークの実施



【地域活動】

- 地域で電力を融通している
- 地域団体でのエコ活動
- 地域や世代間での環境教育
- 地域で資源が循環
 - 地域のお店で購入・修理
 - 消費者と事業者の顔の見える関係



【自然環境】

- 地域の自然を楽しむ文化が当たり前
 - 生物多様性，レジャー，サイクリング
- 植林や間伐に参加する
- 地域の緑や自然，森川の恵みを大切に



(議題)

○2050年のビジョン, ボトルネック解決・行動起爆剤の視点, 2030年の目標指標について, 補足が必要な項目があれば, 教えてください。

○2030年のアクションリストの案について, さらに追加したいアクションはありますか？

分野別WG結成の趣旨

目的

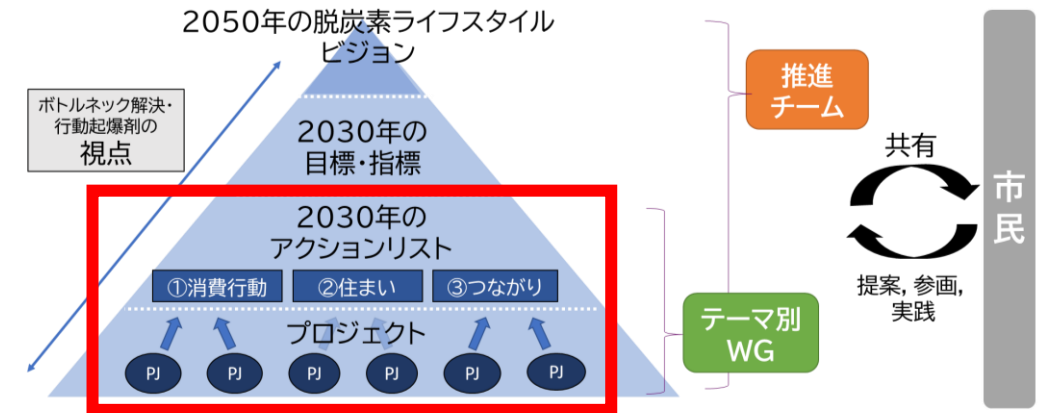
- 2050年の京都における脱炭素社会と将来世代が夢を描ける豊かな社会を同時に実現するため、市民の行動変容の促進に向けた選択肢を社会に生み出す。

構成

- 京都脱炭素ライフスタイル推進チーム～2050京創ミーティング～」（推進チーム）の下、ライフスタイルの3つのテーマ（消費行動、住まい、つながり）ごとに、専門的な知識を持つ又は先進的な取組を行うメンバーにより構成。
- 事務局：京都市，（公財）京都市環境保全活動推進協会

内容

- 2050年の脱炭素ライフスタイルビジョンの実現に向けて、市民の行動変容が進むよう、京都市とともに、市民、事業者及び団体等が手を取り合って実践するアイデア・仕掛けをプロジェクトとして次々と創出していく。
- 新たなアイデアを誘発と、アイデアの実装や仕掛けの拡大につなげ、新しいライフスタイルを実践する動きが市民運動的に広がることを目指す。



2050京創ミーティングの進め方

第1フェーズ（～令和4年夏頃）

第2フェーズ（令和4年夏以降）

推進チーム

会議① 会議② 会議③ 会議④

- ・2050年の脱炭素ライフスタイルのビジョン
- ・2030年の目標, アクションリスト
- ・プロジェクト方向性の検討

ライフスタイルのビジョン等の構築・共有

- ライフスタイルビジョン等の発信
- アクションの率先実行
- プロジェクトへの助言

テーマ別WG

- ①消費行動
- ②住まい
- ③つながり

WG① WG②

- アクションリスト
- プロジェクト方向性の検討

- プロジェクトを創出・実行
- ✓ 社会実験

ライフスタイル実践の市民運動へ！

市民参加

推進チーム等の議論を確認

- ・アクションリスト実践, 追加・提案
- ✓ 市民ワークショップ
- ✓ SNS等での参加, 拡散

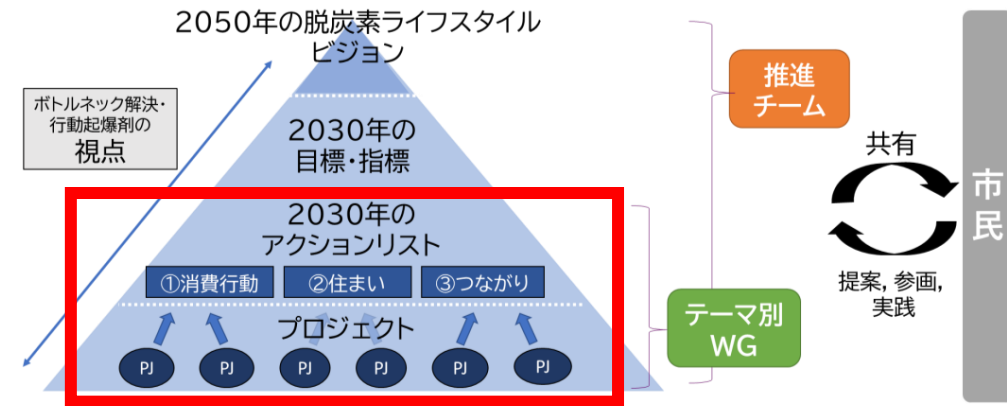
WGでの活動内容

【第1フェーズ】 各WGメンバー数：5～10名

(1) 2030年のアクションリストの検討

- 市民の方に2030年までに実践いただきたいアクションリストの検討

※事前に推進チームでも検討するが、テーマの分野に精通するWGメンバーの皆様に、改めて深めていただく。



(2) プロジェクトの方向性検討・先駆けプロジェクトの実施

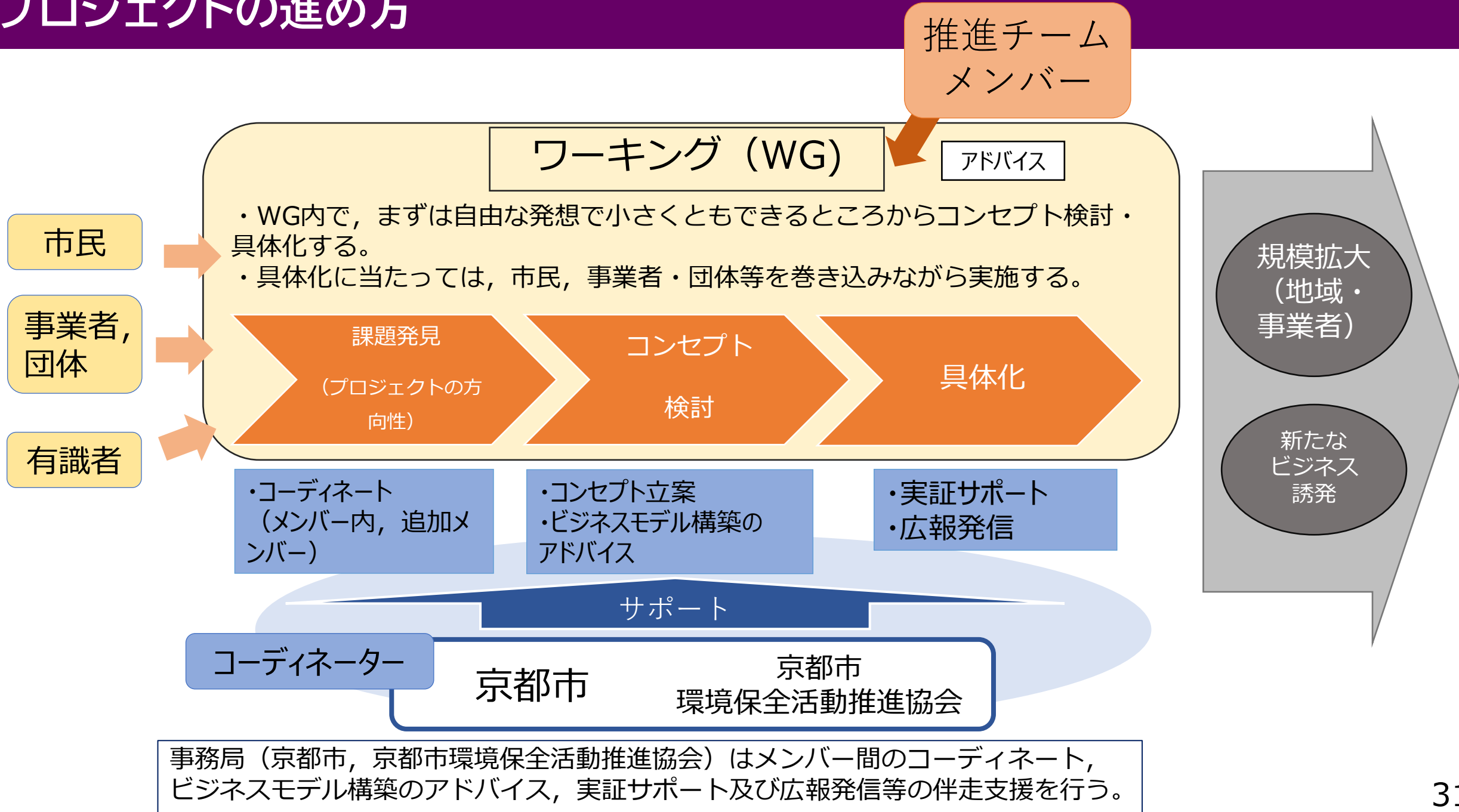
- 市民のアクション（1）が広がるよう、市民、事業者及び団体等が連携しながら実践するアイデア・仕掛け（プロジェクト）の方向性を、コアメンバーにより検討
- 他に先駆けてスタートするプロジェクト（先駆けプロジェクト）の推進

【第2フェーズ】 メンバーを追加予定

(3) プロジェクトの創出・具体化

市民、事業者、団体等を巻き込みながら、プロジェクトを創出・具体化

プロジェクトの進め方



プロジェクトの視点(案)

消費行動 “サステナブルな消費”

本当に必要で長く使える「ほんまもん」を愛し、モノのストーリーを大切にする、心地よい暮らし

衣・その他

視点1 良いものを長く使う（修理やメンテナンスのしやすさ向上）

視点2 衣類等の二次利用を増やす（スキームの検討・回収制度の充実）

食

視点3 食に伴う環境負荷の見える化

視点4 環境に配慮した商品選択のインセンティブづくり



住まい “超スマートな暮らし”

テクノロジーと京都の知恵に支えられた高効率で快適な暮らしへ

視点1 住まいの整え方

視点2 住まいの住まい方

視点3 住まいの選び方

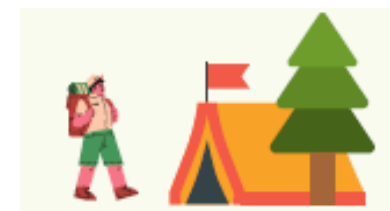


つながり “結う暮らし”

地域のコミュニティや世代間、地域の自然資本とつながること
で安心を取り戻す暮らしへ

視点1 地域の自然を楽しむ

視点2 顔の見えるライフスタイル・
コミュニティづくり



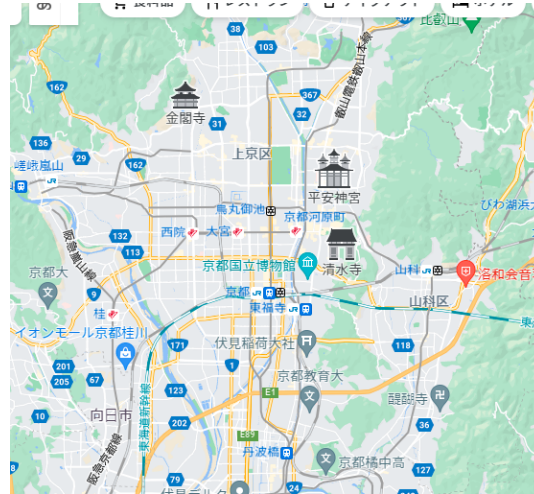
プロジェクト(案) 消費行動

カーボンフットプリント表示のデモストア



- 食品にカーボンフットプリントのラベルを表示
- 環境負荷の低い食品を選択しやすい環境づくりの促進

サステナブルMAPの作成



- お直し店や環境配慮商品、コミュニティの見える化
- 異なるプラットフォーム上の情報を統合

伝統技術の活用 アップサイクル製品の開発



- 漆などの伝統技術を活用した環境配慮製品の開発
- 廃棄物をアップサイクルした製品の開発

プロジェクト(案) 住まい

賃貸物件の省エネ設備に関する 情報提供



- エコアパート指標として、太陽光パネル、エコキュート、LED、二重窓、市内産木材利用等を明示
- 環境配慮型物件の選択率の向上を図る

省エネ家電の選択の推奨



- ナッジ（行動経済学）を活用した、学生への省エネ家電選択への誘導

学校での断熱ワークショップ



津山市（2019）「断熱ワークショップを開催しました」
<https://www.city.tsuyama.lg.jp/business/index2.php?id=6943>

- 市民と専門家がともに学童保育・学校等での断熱DIYに取り組む

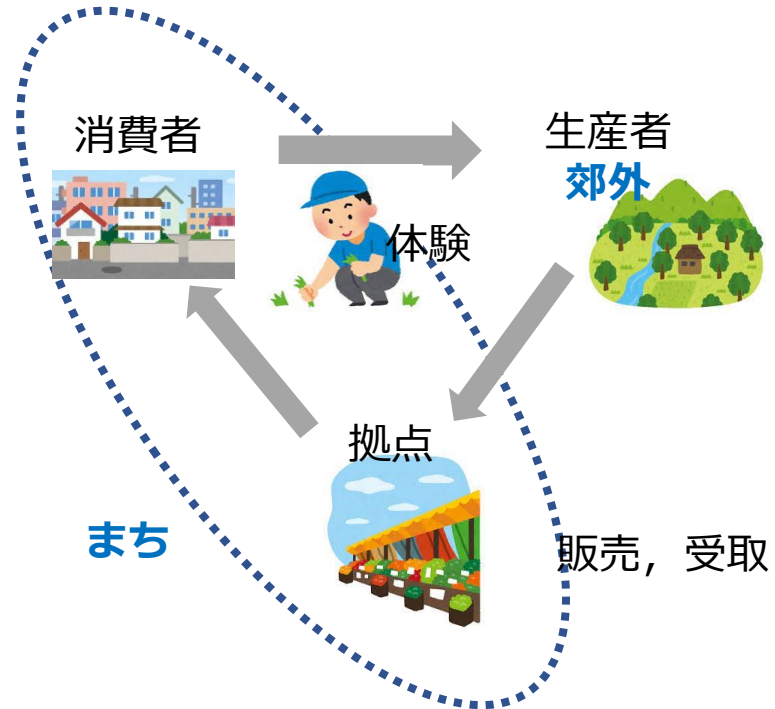
プロジェクト(案) つながり

たい肥化の実践と地産地消の普及



- 学校や地域と連携した、地域でのたい肥利用の推進
- たい肥の利用できる場づくり

郊外とまち、生産者と消費者とのつながり



- 郊外とまちを商品（野菜・工芸品・市内産木材など）でつなぎ、消費者と生産者の顔の見える関係づくり

環境教育による世代間のつながり



- 環境教育等を軸に、子どもと高齢者が触れ合える、つながる、支え合える社会の場づくり
- ゲーム化など楽しみながら学べる仕組みづくり

WGのメンバー(案)

※現在，調整中

五十音順・敬称略
●推進チームメンバー

消費行動	住まい	つながり
●岩崎 達也 MAGASINN KYOTO オーナー	●大木 和典 mui Lab(株) 代表取締役	●太田 航平 NPO法人地域環境デザイン研究所 ecotone 代表理事
堤 卓也 (株) 堤浅吉漆店 専務取締役	●鈴木 靖文 (有) ひのでやエコライフ研究 所 代表取締役	十塚 悠 合同会社洛北社中 代表，大宮交通 公園 管理人
●前田 展広 前田展広事務所 代表（京都市 ソーシャルイノベーション研究所 イノベーション・コーディネー ター）	丸屋 亮介 (株) ジェイ・エス・ビー 営業 推進本部 副本部長	●中嶋 直己 (株) 中嶋農園 4 代目
パタゴニア京都	吉田 創一 (株) フラットエージェンシー 代表取締役	中田 俊 株式会社夢びと 代表取締役
		●野村 恭彦 Slow Innovation(株) 代表取締役
		東 信史 有限責任事業組合まちとしごと総合 研究所 代表

WGのスケジュール

【フェーズ1】

- ・ テーマ別に、令和3年度内に各2回開催予定



	時期	議題
1回目	令和3年12月～ 令和4年1月頃	・ アクションリストの検討 ・ プロジェクト方向性の検討 ・ 先駆けプロジェクトの検討
2回目	令和4年2月～3月頃	・ アクションリストのとりまとめ ・ プロジェクト方向性のとりまとめ ・ 先駆けプロジェクトの創出

【フェーズ2】

- ・ プロジェクト創出・具体化
- ・ WGメンバーを追加（予定）

推進チームのスケジュール

	時期	議題
オンライン相談会	随時	WG状況報告・プロジェクトの相談
3回目	令和4年4月～5月頃	WGの議論を踏まえ「アクションリスト」, 「プロジェクトの方向性」, 「先駆けプロジェクト」等について
4回目	令和4年7月～8月頃	- とりまとめ（ビジョン, 目標・指標, アクションリスト等） - ビジョンのキャッチコピー

推進チームへのお願い

次回会議までの間に行われるWG会議について, Facebookグループなどで随時情報提供しますので是非, ご確認ください。